

ネギハモグリバエの発生に注意しましょう！

令和元（2019）年に、ねぎ栽培ほ場において、葉に激しい食害を引き起こすネギハモグリバエ別系統（以下、「B系統」と略記）（写真1、2、3）の発生が県内で初めて確認されました（[令和元（2019）年病害虫発生予察特殊報第1号](#)）。

ネギハモグリバエB系統は、従来の系統（以下、「A系統」と略記）とは形態では見分けが付かないことから、ほ場でネギハモグリバエが発生した場合は、B系統かもしれないと想定し、速やかに防除しましょう。



写真1 ネギハモグリバエ
B系統の幼虫

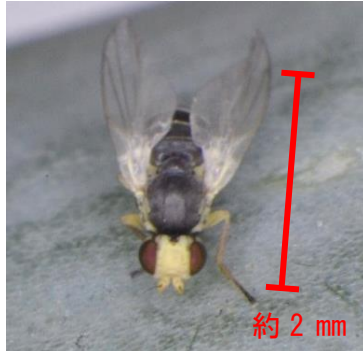


写真2 ネギハモグリバエ
B系統の成虫



写真3 ネギハモグリバエ B系統の
激しい食害により白化した葉

1 発生状況

昨年は9～10月に県内6市町で激しい食害を受けたほ場が多く確認された。本年も、既に県内の一部地域で激しい食害を受けたほ場が確認されており、昨年発生していなかった地域においても被害が拡大している。

本年も9～10月にB系統の発生が増えることが予想されるので、昨年被害がなかった地域においても発生に注意し、多発する前に防除することが重要である。

2 発生生態と被害の特徴

両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹になる。20～30℃の温度条件下では、B系統の発育所要日数はA系統に比べて短い。

A系統では1葉当たり1～数匹程度で加害するのに対し、B系統では1葉あたり10匹以上の幼虫で集中的に加害する傾向がある。B系統に食害されると、ひどい場合は葉全体が白化する。

3 防除対策

- (1) 表1、2を参考にして、ネギハモグリバエに適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。定植時や土寄せ時には、粒剤やかん注剤を処理する。IRACコードの異なる薬剤をローテーションで使用し、抵抗性の発達を抑制する。
- (2) ほ場をよく観察し、ネギハモグリバエの発生が認められた場合は、速やかに防除を行う。
- (3) ねぎは薬液の付着しにくい作物なので、展着剤を加用し、付着性を高める。
- (4) 被害葉及び収穫残さは本種の発生源となるので、残さは、ほ場内に放置せず、一か所にまとめて積み上げ、ビニール等で覆い、裾部分を土で埋め密閉する等適切に処分する。

表1 生育期にネギハモグリバエに使用する主な薬剤（令和2（2020）年8月12日現在）

農薬の名称	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の 使用回数	IRAC コード	
マラソン乳剤	収穫7日前まで	1000倍	散布	6回以内	1(B)	
アグロスリン乳剤	収穫7日前まで	2000倍	散布	5回以内	3(A)	
アクタラ顆粒水溶剤	収穫3日前まで	1000～2000倍	散布	3回以内	4A	
*アルバリン粒剤 *スタークル粒剤	生育期 但し、 収穫3日前まで	6～9kg/10a	株元散布	2回以内		
*アルバリン顆粒水溶剤 *スタークル顆粒水溶剤	生育期 但し、 収穫14日前まで	400倍	株元灌注	1回		
ダントツ水溶剤	収穫3日前まで	2000～4000倍	散布	4回以内		
ダントツ粒剤	収穫3日前まで	3～6kg/10a	株元散布	4回以内		
ベストガード水溶剤	収穫前日まで	1000～2000倍	散布	3回以内		
ベストガード粒剤	収穫前日まで	6kg/10a	株元処理	3回以内		
ディアナSC	収穫前日まで	2500～5000倍	散布	2回以内		5
*アニキ乳剤	収穫3日前まで	1000倍	散布	3回以内		6
*アファーム乳剤	収穫7日前まで	1000倍	散布	3回以内		
リーフガード顆粒水和剤	収穫7日前まで	1500倍	散布	2回以内	14	
*プレバソフロアブル5	収穫3日前まで	2000倍	散布	3回以内	28	
*ベネビアOD	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内		
*ベリマークSC	収穫7日前まで	2000倍	株元灌注	1回		
*ヨーバルフロアブル	収穫3日前まで	2500～5000倍	散布	3回以内		
グレーシア乳剤	収穫7日前まで	2000～3000倍	散布	2回以内	30	
ファインセーブフロアブル	収穫3日前まで	2000倍	散布	2回以内	-	

*ハモグリバエ類に登録のある薬剤

表2 定植時にネギハモグリバエに使用する主な薬剤（令和2（2020）年8月12日現在）

農薬の名称	使用時期	希釈倍数 使用量	使用方法	本剤の 使用回数	IRAC コード
アクタラ粒剤5	植付時	6～9kg/10a	作条混和	1回	4A
*アルバリン粒剤 *スタークル粒剤	定植時	6kg/10a	株元散布	1回	
*アルバリン顆粒水溶剤 *スタークル顆粒水溶剤	定植前日～定植時	50倍	灌注	1回	
ダントツ粒剤	植付時	6kg/10a	植溝処理土壌混和	1回	
ベストガード粒剤	定植時	6kg/10a	植溝処理土壌混和	1回	
モスピラン粒剤	定植前日～定植当日 植付時	0.25～0.5g/株 6kg/10a	株元散布 植溝土壌混和	1回 1回	
*プレバソフロアブル5	育苗期後半～定植当日	100倍	灌注	1回	28
*ベリマークSC	育苗期後半～定植当日	400倍	灌注	1回	

*ハモグリバエ類に登録のある薬剤

詳細は、農業環境指導センター（Tel 028-626-3086）までお問合せ下さい。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「栃木県農政部 (@tochigi_nousei)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。